

No. 9 「認められる」ことが力になる

～チック症状がある児童の“不安”と“自己否定”に寄り添う支援～

群馬県立しろがね学園 高柳 優菜

1 はじめに

しろがね学園（以下、「学園」）は、家庭や地域での生活が困難な知的障害児を対象とした、福祉型障害児入所施設である。児童の特性は多様であり、自閉スペクトラム症、ADHD（注意欠如・多動症）、トゥレット症候群など、複数の発達特性を併せ持つ児童も少なくない。

本研究では、トゥレット症候群と診断された知的障害のある男子児童に対して、学園で約3年間にわたり支援してきた経過を振り返る。

そして、事例の行動の背景にある心理的要因を理解し、支援者との信頼関係の構築を通して、事例がどのように自己肯定感を育み、社会性を伸ばしていくことができたのか、具体的な支援の実践を通して考察する。

2 事例

- ・ Aさん（17歳・男子） 令和4年3月入所 特別支援学校高等部3年生
- ・ 障害 知的障害中度（B1）自閉スペクトラム症（ASD）・ADHD
- ・ 疾病 トウレット症候群、躁うつ病
- ・ 行動特性 高い集中力、特定の対象や人物への強い執着、自分の意図通りに行動させようとする傾向、コレクター気質
- ・ 性格

優しく気遣いができる反面、こだわりが強く、自己主導的な面が見られる。信頼関係が築かれた大人との関わりを好み、趣味の話題などを通して活発なやりとりを楽しむことができる。寂しがり屋の傾向があり、日常的に大人との関わりを求める様子が見られる。一方で、同年代との関係づくりには苦手さがあり、対人場面では不安や緊張が強く出ることがある。また、チック症状の影響により、他者の視線を過度に気にするようになり、自分に対して否定的な感情を抱くようになった。その結果、自尊感情が十分に育たず、対人関係では防衛的あるいは反発的な態度を示すことがある。

3 トウレット症候群とは

突発的かつ反復的な運動チックや音声チックを特徴とする神経発達症であり、本人の意思とは無関係に現れる症状が、日常生活や対人関係に大きな影響を及ぼす。特に知的障害を併せ持つ場合、本人の困難さはより複雑化し、周囲の理解や支援の在り方が一層重要となる。

Aさんの場合、体をのけぞらせる、頭部や体幹を激しく振る、顔をしかめる、他者の顔の前に指を突き出す等の運動チックや、突然大声を発する、唸り声や短い叫び声を上

げる、「アッ!」「ウッ!」等の発声といった音声チックが日常的に見られている。

4 課題の整理と支援の方向性

アセスメントに基づき支援の方向性を検討した結果、Aさんを受容し自己肯定感を高める支援が望ましいと考えた。また、発言や行動の背景を理解し、支援者間で共通理解を図りながら、寮での生活がAさんにとって安心できる「居場所」となるよう、支援を組み立てることとした。

支援にあたっては、以下の4つの視点から支援の方向性を整理した。

(1) 基本的な支援の方針

- ・日課や当番を通して支援者から認められる経験を積むことで、意欲を育み、自己肯定感を高める
- ・できたことを褒めることで自信を高め、人間関係を円滑に築けるようにする
- ・自己肯定感の低さに十分配慮し、否定的な声かけを避ける

(2) チック症状への対応

- ・チック症状には、症状の多少にかかわらず【反応しない】を徹底する
- ・チックがあっても「大丈夫だよ」と伝え続ける

(3) コミュニケーションの工夫

- ・簡潔に伝える
- ・複雑な説明は文字や絵にして視覚的に伝える
- ・他児の支援中など、すぐにAさんに対応できないときは、事前にその旨を伝える

(4) 日常生活の中で大切にしたい支援の視点

- ・Aさんの「寂しい」という発言には不安やつながりを求める思いが込められていることを理解し、「〇時〇分になったら話しましょう」と時間を決めて対応することで見通しを持たせ、安心感を育む関わりをする
- ・お話タイムは趣味や学校の話など、本人が安心して話せる内容を中心にし、「話してもいい」「受け入れてもらえる」という実感を得られるよう配慮する

これらの支援のポイントは「Aさんの支援の統一事項」としてまとめ、寮会議にて全職員に共有した。

5 実際の支援

(1) 1年目 令和4年度（令和4年6月～令和5年3月）

【達成目標】楽しみや賞賛されることを励みに、日課に沿って生活することができる。

実施目標	Aさんの行動	支援方法及び留意事項
＜4月＞支援者と一緒に日課表を確認し、各日課に取り組むことができる。	・支援者と一緒に日課表を確認し、日課に取り組む。 ・日課が終わるごとにスケジュールカードを剥がしていく。	・すぐに日課に取り組みない場合は、「〇分まで(5分～10分程度)待つから、それまでにできそうなら言ってね」と伝え、待つ。 ・課題や当番のチェック表について、できていない時でも「×」

		はつけず、「次はお願いします」などの励ましの言葉を記入する。
＜9月＞支援者からの「次の日課は何ですか？」の声かけで日課表を確認し、取り組むことができる。	・支援者に声をかけられたら自分で日課表を確認し、次の活動に取り組む。	・日課の中の「課題」は、Aさんの好きな車の写真を使用したマッチング課題など、意欲的に取り組めるものを用意する。
＜1月＞支援者の見守りで日課表を確認し、取り組むことができる。	・自分で日課表を確認し、支援者に「〇〇をやります」と伝える。 ・支援者に見守られながら、日課に取り組む。	・チェック表にAさんへのお礼や労いのコメントを書き込むことで、達成感や意欲向上に繋げる。 ・体が細く、チック症状によって転倒し怪我をすることを防ぐため、体幹トレーニングを日課に取り入れる。

あさ	ひる	よる
きがえ	おやつ	ごはん
ごはん	じゆうじかん	ガムをかむ
じゆうじかん	おふろ	きがえ
がっこう	じゆうじかん	じゆうじかん
	4:45 バランスディスク	8:00 ふくしきこきゅう
	かだい	ねる



Aさんの日課表（1年目 令和4年度） ＜バランスディスクで体幹トレーニング＞

（2）2年目 令和5年度 （令和5年4月～令和6年3月）

【達成目標】報酬を励みに、当番や作業を含む日課に取り組むことができる。

実施目標	Aさんの行動	支援方法及び留意事項
＜4月＞報酬を励みに決められた当番や日課に自ら取り組み、報告することができる。	・時間になったら「〇〇をやります」「終わりました、チェックをお願いします」と支援者に報告し、チェックをもらう。	・褒める機会を増やすために「お手伝いボーナス制度」を開始。やれそうだったことをリストの中から選んで、支援者に伝えてから始める。 ・ボーナス日課として、登校前に

	・当番と課題はそれぞれ1日に1回ずつ取り組む。 ・当番と課題が1週間すべてできたら報酬を得る。	他児にハンカチを配布すること、廊下のベンチを雑巾で清掃すること、職員の手伝いすることなどを例示した。
< 9 月 > 当番が増え、報酬を励みに決められた当番や日課に自ら取り組み、報告することができる。	・当番と課題に取り組む回数が1日2回ずつに増える。	・当番と課題の回数を増やした分、報酬も増やすことで、モチベーションの維持と向上を図った。
< 1 月 > 課題に取り組む時間が増えても、報酬を励みに決められた当番や日課に自ら取り組み、報告することができる。	・課題の量が増えることで取り組み時間が長くなる。	・得意な貼り絵作業に取り組み、完成した作品を学園内のさまざまな場所に飾ることで、他寮の職員や児童から声をかけてもらったり、褒めてもらったりする機会を作った。そのような経験を通じて、達成感や自己肯定感を育むことを目的の一つとした。

学校がある日		
あさ	ひる	よる
あさごはん	おやつ	よるごはん
せいふくきがえ	じゅうじかん	きがえ（お風呂のない日）
8:45 がっこう	おふろ（1日おき）	6:10 ころ とうばん
	じゅうじかん	じゅうじかん
	4:45 バランスディスク	7:30 ふくしきこぎゅう
	かだい①	ねる
お休みの日		
あさ	ひる	よる
きがえ	ひるごはん	よるごはん
あさごはん	じゅうじかん	きがえ（お風呂のない日）
じゅうじかん	おふろ（1日おき）	6:10 ころ とうばん
9:30 バランスボール	おやつ	じゅうじかん
かだい②	じゅうじかん	7:30 ふくしきこぎゅう
おやつ	4:45 バランスディスク	ねる
じゅうじかん	かだい①	
	じゅうじかん	



Aさんの日課表（2年目 令和5年度）

<園内に飾ってあるAさんの作品>

（3）3年目 令和6年度（令和6年4月～令和7年3月）

【達成目標】自己選択の場面を含む日課で生活することができる。

実施目標	Aさんの行動	支援方法及び留意事項
＜４月＞支援者からの声かけで作業と当番を選択し、選択理由を伝えることができる。	・支援者から「今日ほどの作業（当番）をしますか？」と聞かれたら、「〇〇をします」と答える。 ・次に「なぜそれを選んだのか教えてください」と聞かれたら、選択理由を答える。 ・取り組んだら「できました」と報告し、チェックをもらう。	・Aさんは自分に自信がなく、相手の顔をうかがって我慢したり、察してもらおうとしたりする傾向がある。そのため、支援を通じて『自分でやりたいことを選ぶ』その理由を自分の言葉で伝える』という経験を積み、達成感や認められた喜びを感じられるようにすることを目的とした。 ・文言（表現）のひな型を提示しておくことで、Aさんが支援者に伝える手助けとした。
＜６月＞作業量や難易度が上がっても、支援者からの声かけで作業（当番）を選択し、選択理由を伝えることができる。	・全体的に作業量が増えたり、難易度が上がったとしても、それまでと同様に取り組む。	・当番や課題の難易度および量が増加した分、報酬も増やすことで、モチベーションの維持を図った。
＜９月＞決められた時間に自ら今日やる作業（当番）を選択し、理由とともに支援者に伝えることができる。	・自ら「作業（当番）をします、今日は〇〇をします」と選択し、選択理由を支援者に伝える。	・当番活動では、３か所ある掃除箇所の中から、Aさんが汚れていると感じた場所や、その日の体調に合わせてできそうな場所を自分で選んでもらった。また、その選択理由を自分の言葉で伝えることで、自主性や判断力を育むことを支援した。
＜１月＞作業量や難易度が上がっても、決められた時間に自ら今日やる作業（当番）を選択し、理由とともに支援者に伝えることができる。	・さらに作業量が増え、難易度が上がる。	・当番や課題の難易度および量が増加した分、報酬も増やすことで、モチベーションの維持と向上を図った。

9がつからステップアップ!!

いわれなくても、
きかれなくても、

じぶんから
かだい や とうばんを やります

じぶんから
えらんだ「りゅう」を いいます

【れい】

- ・かだいをおねがいします！おかねをためたいので、きょうは〇〇をやります！
- ・とうばんをやります！よごれているので〇〇をそうじします！！ ……など

自ら「課題やります」と言えたか？		選んだ作業と報酬を○で囲む						自ら選択理由を言えたか？声かけを要したか？
例→	○	ひもとおし & ボール	50円	くつした	30円	てん つなぎ	10円	○
/ 月		ひもとおし & ボール	50円	くつした	30円	てん つなぎ	10円	
/ 火		ひもとおし & ボール	50円	くつした	30円	てん つなぎ	10円	
/ 水		ひもとおし & ボール	50円	くつした	30円	てん つなぎ	10円	

<チェック表>

Aさんへの支援説明書（3年目 令和6年度）

（4）4年目 令和7年度（令和7年4月～現在）

【達成目標】卒後の生活を想定し、私物管理や作業課題に取り組むことができる。

実施目標	Aさんの行動	支援方法及び留意事項
＜4月＞支援者からの声かけで居室の片づけと作業課題を行うことができる。	・支援者から「〇〇の時間です」と声をかけられたら取り組みを開始し、終わったら報告。支援者から居室内の確認を受け、チェックをもらう。	・物の定位置を決め、床にテープで目印をつけることで、片付けやすい環境を整えた。 ・チェック項目は①床にゴミが落ちていないか、②定位置に物が片付けられているか、の2点である。
＜9月＞支援者からの声かけで衣類整理を行うことができる。 ※現在実施中の支援	・支援者から「衣類整理をお願いします」と声をかけられたら、手順シートを参考にして衣類整理を行う。 ・終わったら支援者に報告し、項目に沿って確認を受け、チェックをもらう。	・衣類整理の方法を記載した視覚提示シートを設置し、一人でも整理が行えるように促す。 ・チェック項目は①畳んで収納してあるか、②決められた場所に収納できているか、③脱いだ服を洗濯に出したか、の3点である。
＜1月＞自ら衣類整理を行い、報告をすることができる。	・時間になったら、衣類が入ったカゴと手順シートを見て、衣	・支援者が事前に環境を整えることで、本児は時間になると自分で衣類整理に取り組む。自主性

※令和8年1月開始 予定	類整理に取り組む。 ・支援者に「できました」と報告し、チェックをもらう。	や自立心の育成を一つのねらいとしている。
-----------------	---	----------------------

いるいせいい せつめいしょ

いつ:(月)~(金) ごごのおやつあと

どこで:おへや

だれと:はやばんBしよくいん



どのように:

- ① ごごのおやつあと、いるいせいをしてください。
- ② たたんだじょうたいで、きめられたばしょに、しまします。
- ③ めいだふくは、せんたくに だします。
- ④ おわったら はやばんBしよくいんに、
「おわりました！チェックをおねがいます！」と いいます。
- ⑤ チェックをしてもらったら、おわります。

！かくにんしよう！

いちどきだふくは、せんたくにだします！！

めいだふくが、おへやにおきっぱなしになっていませんか？

3じ30ぶんまでに いるいせいをしまししょう！！

	かだい	へやのかたづけ		かだい	へやのかたづけ
(月)			(月)		
(火)			(火)		
(水)			(水)		
(木)			(木)		
(金)			(金)		
(土)			(土)		
(日)		① わくせんのなかにものをかたづけたか？	(日)		① わくせんのなかにものをかたづけたか？
		② ゆかにごみはおちていないか？			② ゆかにごみはおちていないか？

パーフェクトで300えんゲット！
 こんしゅうの
 おこづかいはい・・・

パーフェクトで300えんゲット！
 こんしゅうの
 おこづかいはい・・・

Aさんへの衣類整理説明書（4年目 令和7年度） <チェック表>

6 支援の成果と考察

（1）支援の成果

入所当初のAさんは、チック症状が出るたびに「ごめん」と謝るなど、自信のなさや自尊心の低さが顕著であった。また、生活環境の変化による不安から言いたいことをうまく伝えられず、不適切な行動で周囲に働きかける様子も見られたが、段階的な支援を通じて、Aさんには以下のような変化が見られた。

- 1年目：**スケジュール支援により生活に見通しが持てるようになり、安心感が得られた。
- 2年目：**当番や課題を通じて「自分の役割がある」と実感し、成功体験を重ねることで自己肯定感が育まれた。
- 3年目：**自己選択とその理由を言語化する支援により、自分の考えを言葉で伝える力が向上した。また、支援者に認められることで、自信を持って発言できるようになった。

また、入所当初は「寂しい」「お話したい」と居室から叫ぶことが多かったが、現在では自ら支援者のもとへ来て趣味や学校の話をするなど、落ち着いたコミュニケーションが可能となっている。

なお、4年目となる現在は、「居室で衣類管理をしたい」というAさんの希望を受け、まずは居室の整理整頓から取り組みを始めている。9月からは、決められたルー

ルに沿って衣類を管理する予定であり、この支援を通じて「自分の意思が尊重されている」「任せてもらえている」という実感を得ることが期待されている。こうした経験は、「自分でできることが増えている」という自信にもつながり、今後のさらなる自立に向けた大きな一歩となると考える。

（２）考察

Aさんの変化は、本人の特性に寄り添った継続的な支援の成果であると思われる。特に、以下の３点が効果的であったと考えられる。

① 安心できる関係性の構築

チック症状に過剰に反応せず、否定的な関わりを避けることで、「受け入れられている」と感じられる環境を整えた。

② 肯定的なフィードバックの積み重ね

できたことを認め、褒めることで、自己肯定感が徐々に育まれた。

③ 役割や選択の機会の提供

自分が必要とされていると感じる経験や、自分で選び発言する機会が、主体性と社会性の発達を促した。

これらの支援を通じて、Aさんは安心して生活できるようになり、対人関係にも前向きな姿勢が見られるようになった。

７ まとめ

Aさんはトゥレット症候群に起因するチック症状や、それに伴う対人場面での不安感などから、自己否定的な感情を抱えながら生活していた。しかし、自分の役割を持ち、日々の支援の中で「できたこと」を認められ、選択を尊重される経験を重ねることで、「自分はここにいていい」「自分の気持ちを伝えてもいい」と感じ、自己肯定感を高めることができたと考える。また支援者側も、Aさんの支援を通して、あらためて「認められること」が力になる、ということを再認識した。

特に、支援者が否定的な声かけをせず、チック症状にも過剰に反応しないという関わり方は、Aさんにとって安心できる土台となり、信頼関係の構築にもつながった。こうした支援の積み重ねが、Aさんの自尊感情や社会性の育みを後押ししたという実感は、支援者にとっても大きな学びとなった。

今後もAさんの思いや特性と丁寧に向き合い、寄り添いながら、「認められる」経験を大切にしたい支援を継続し、Aさんが自分らしく生きる力を育んでいけるよう、努めていきたい。

８ 参考文献

メディカルノート「トゥレット症候群について」 ホームページ、インターネット、
<https://medicalnote.jp/diseases/トゥレット症候群>